



綾羅木ボランティアの会

26年間にわたり、独居の高齢者を支え続けてきたことが評価され、ボランティア功労者厚生労働大臣表彰を受賞。その活動の原動力は、「喜んでくれる皆さんの笑顔」でした。

笑顔とおしゃべりが止まらない

誰かの役に立ちたい

「あんたあ元気にしちよったかね？」3カ月ぶり270回目を迎えるこの会は、綾羅木地区の主婦たちが中心となって月1回続けてきた交流の場。昼間一人で過ごす高齢者の方々に、食事をしながら交流ができる、そんなサービスを提供していきます。

始まりは平成8年、阪神・淡路大震災が起こった翌年でした。会長の佐藤寿美恵さん（集合写真前列中央）は、会を立ち上げたメンバーの一人。「人の役に立つことをしたい」と思っていました。実は自分の子に先天性の心臓疾患があっ



▲ご近所さんに誘われて初めて参加した方もこの笑顔。

て、この子は将来誰かの世話になるのだろうか。その前に先に私が人の役に立っておきたいと思ったんです」
当時はまだ会食サービスがなかった時代。社会福祉協議会のボランティアに登録し、約1年間病院などでの研修に臨みました。

できることを、
できることから

近所に、初期メンバーの一人が経営していた、いわゆるおふくろの味と呼ばれるような食堂がありました。食堂の店休日を利用して始めた会食サービス。利用者も増えてきて綾羅木会館を借りられるようにもなりましたが、シンク一つにコンロ一つ、おまけにトイレも和式。作る側にも利用する側にも具合が悪い環境でしたが、自治会長に掛け合い、手狭だった調理室を少しずつ広くしていきました。

調理や盛り付けなど、手際よく準備を進めるメンバーたち。男性陣だって負けていま



Linked Instagram インスタグラム

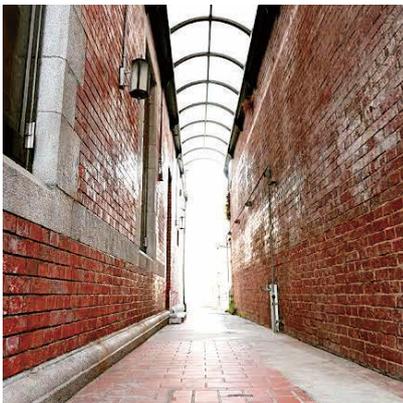
市報×インスタグラム連動企画
フォロワーの皆さんが投稿した下関
の魅力が伝わる写真をご紹介します



♡ Q ▼ @anisan.kさん



♡ Q ▼ @sky_45_323さん



♡ Q ▼ @nakamaru_shukichiさん

Editor's note

編集後記

■市報制作はパワフルで熱量ある人に出会い「自分も下関で頑張ろう」と前向きになれるんです！うなされる夜もありますが！西村
■豊浦高校が毛利家の館跡に建っていると知り、驚きました。豊臣秀吉から拝領した茶壺は、すごく価値があるそうですよ！必見です！廣野
■お弁当ひとつ頂いたんですけど、体に良い味ということが、体で分かりました。じわ~っと体にしみ込んでくる、やさしい味でした。宮村



▶ハワイアンダンスや手品、体操に講演会と、イベント盛りだくさんの会。



◀テレビでも活動が紹介されました。(2006年1月)



▶炊きたての栗ごはんの味見。「どんなかね?」「うん、上等」

続けられる秘訣

人数分の食事の準備となると、前もって利用者の人数を把握して、メンバーの人数も把握して、ということがまず浮かびます。しかし佐藤会長、「事前の出欠は取らないんです。来たいときに来ていただく。」

せん。高齢で足が不自由になつてきた方も気兼ねなく参加できるよう、家用車で迎えに行きます。「ゲームなどイベント担当の壇さん、歌が得意な小松さん、献立や調理担当の川久保さんに松岡さんに西町さん。みんな自分にできることをしてくれています」と佐藤会長は話します。

「私たちも、来れるときに来る」受け付けや送迎で活躍する方も、「月に1回だから負担なく続けられる」これこそ、無理なく続けられる秘訣ではないでしょうか。

利用者の方に感想を尋ねると、皆さん口をそろえたかのように、「人と話ができてのうれしいです」と答えます。一人くらい料理の味を話してくれるかと思いきや、「家に居たってテレビの守りをするだけ」「うちは猫の相手しかしやせん」と、また自然と会話が広がっていきます。料理がおいしいのなんて当たり前。皆さんにとってこの会は、とても居心地が良いようです。